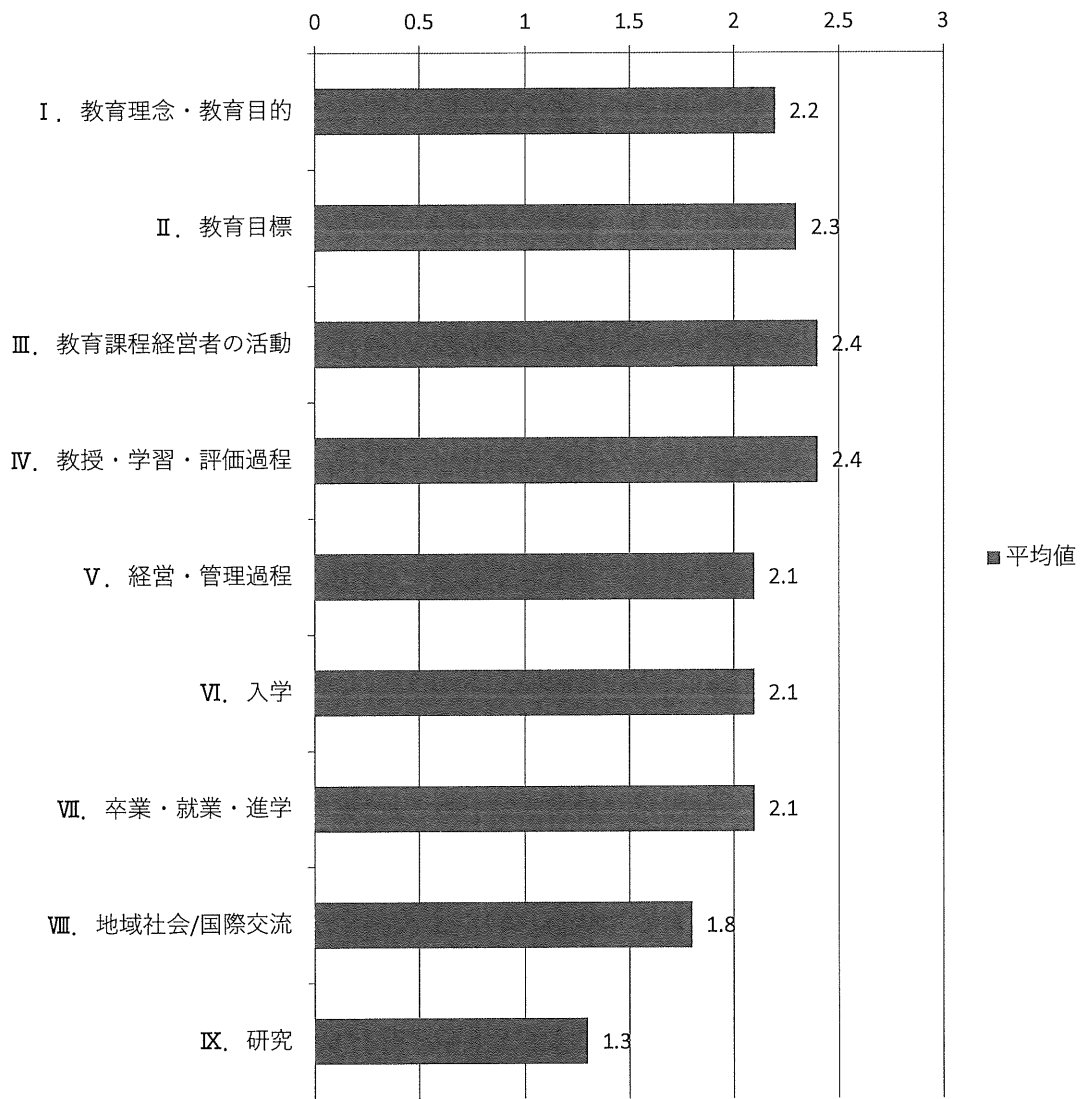


令和元年度自己点検・自己評価結果



学校自己評価〔令和元年度〕

		今後の課題
I	教育目的理念	・2022年にカリキュラム改正があるため教育目標・教育目的は見直す点がある。
II	教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者としての支援は、卒後の「学び続ける力」につながる。目標達成に向けて、卒後「学ぶ」ことに弊害となっていること、さらには「学ぶ力」に繋がっていることなど、調整すると学校と病院などの情報共有、もしくは、新人教育といった「継続教育」という目標が生きて来るのではないか。 ・教育目標もカリキュラム改正に合わせて見直す必要がある。
III	教育課程経営者の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全体として、授業実践、評価について討議する機会を設ける事で、関連性を理解し、一貫した活動が教職員全体に「みえる」形になるものとする。 ・科目配列は年度ごとに変わっているため、休学した学生は不利益になっている。 ・インシデント、アクシデントを分析していないため、分析する必要がある。 ・専門性が発揮できるような教員の担当科目でなければ、教育目標に到達はできない。専門性が発揮できる場であるからこそ、教員の質は向上し、教育の質向上につながる。専門性を評価する場がない状況では相互成長は難しい。 ・実習施設側に現在の学生の状況を説明し、1人1人を支援する体制を整えていく必要があると考える。
IV	教授・学習過程評価	<ul style="list-style-type: none"> ・マトリックスを考え直す必要がある。 ・協力体制は明確であると認識しているが、学生に対する効果的な方法論の共通理解に至っていないこともあるため、教員が考える方法論について時期を逸せず伝える必要がある。
V	経営管理過程	<ul style="list-style-type: none"> ・知らないだけかもしれないがどこに明示しているのか分からない。 ・管理者が変わるため、明示できていない部分が多い。 ・他方の課程の状況を財政に関して、ポツポツと発言するばかりで、共有する、改善するという意見として反映されていないため、同じ理解のもとに実行する必要がある。 ・メンタルサポートが必要。 ・構想は立案されているものと思うが整合性も含めて評価できない。
VI	入学	・入学者減数のため広報など入学者数増の活動を継続して実施する必要がある。
VII	卒業進学	<ul style="list-style-type: none"> ・分析しているかは不明だが就職先は把握している。 ・卒業生の状況把握ができていないため把握する方法が必要である。
VIII	地域国際交流	・地域との交流を図る必要がある。
IX	研究	・研究に取り組む体制を確立する必要がある。